

第46回 全国少年柔道大会 群馬県予選 要項

1. 目的 柔道の基本技能を正しく修得し、わが国の将来をになう心身ともに健康な小学生児童を育成するとともに、相互の親睦を図ることを目的とする。
2. 主催 群馬県柔道連盟
3. 期 日 (1) 2026年2月15日(日) 開会式 10時00分
集合・受付 9時00分 (9時前の入場および練習は不可)
審判監督会議 9時30分
(2) 計量は受付時に選手全員の計量を行う
4. 会場 A L S O K ぐんま武道館 第一道場 〒371 - 0100 群馬県前橋市関根町800
TEL : 027-234-5555
5. 参加資格 (1) 参加する選手は、原則として2026年4月30日現在、小学校5年生・6年生の男女。
但し、5年生の補充として4年生は出場できるが、3年生以下の出場は認めない。
(2) 出場チームは、全日本柔道連盟に団体登録し、**選手はその団体にメンバー登録をしていること。**
(3) 参加チームの監督は、全日本柔道連盟公認指導者資格【C指導員】以上を保有していること。
(4) 皮膚真菌症(トンスランス感染症)について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。
6. チーム編成 (1) チームの編成は分団、または道場単位とする(混成チームは認めない)。
(2) 1チームの人員は監督1名、選手5名。補欠2名を加えることができる。**申込後の変更はできない。**
(3) **選手の編成は大将・副将・中堅は6年生。次鋒・先鋒は5年生とし学年順に配列する。**
ただし、下学年の児童が一学年上の児童の位置に出場することはできる。
選手は各学年順に配列し、同学年内は「体重順」に配列すること。
(4) 選手の変更は、**エントリーしている補欠からのみ行うことができる。**
この場合も、選手は各学年順に配列し、同学年内は「体重順」に配列すること。
なお、補欠を新たに補充することは不可とする。
(5) 計量結果に伴う選手の配列変更は計量時に行うこと。
(6) 原則は2戦目以降から、怪我等による選手の変更を認める。ただし、(3)に定められた編成内で配列すること。
*大会前日および当日の体調不良及び怪我により出場が困難になった場合は1回戦目からの選手交代を認める。
*選手変更により一度退いた選手はその後の試合には出場できない。
*選手変更については、監督が変更前後の配列表を進行係に早急に届け出ること。
(7) **選手が欠ける場合は先鋒詰め・大将詰めとはせず、抜けた種別が空きとなる。**
7. 試合方法 (1) 試合はトーナメント戦で行う。
(2) 各チーム5名の点取り対抗戦とする。
(3) チーム間の勝敗決定方法は、次のとおりとする。
(4) 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
① 勝ち数が同じときは内容(「一本勝ち」「技有り」の勝ち数)による。
② 内容も同じときは、代表戦を1回行い、必ず優劣を決する。代表戦に出場する選手は、
③ 「引き分け」の中から抽選で1組を選んで通常の3分間の試合を行う。得点差が無く、かつ「指導」差が1以内の場合は旗判定で勝敗を決する。(GSは行わない)

8 . 審 判 規 定

- (1) 国際柔道連盟試合審判規程(2025-2028) および国内における少年大会特別規程で行う。
- (2) 試合時間は3分間とする。
- (3) 勝敗の決定基準は「一本」「技あり」「有効」「僅差」※とし、得点差が無く、且つ「指導」差が1以内の場合は「引き分け」とする。
※「僅差」とは、双方の選手間に技による評価(技あり、有効)がない、又は同等の場合、「指導」差が2あった場合に少ない選手を「僅差」による優勢勝ちとする。

9 . 表 彰

- (1) 第1位から第3位（2チーム）までを表彰する。
- (2) 優勝チームは令和8年5月5日に講道館で行われる予定の第46回全国少年柔道大会に群馬県代表として出場権を得られる。

10 . 申 込 方 法

- (1) 所定の申込フォームに入力し、群馬県柔道連盟 普及部長 櫻井太郎「sakurai-judo@ivy.ocn.jp」までExcelにて提出すること。
- (2) 申込締切り 2026年1月24日(土)17:00 まで必着
- (3) 参加料: 8,000円 （大会参加費: 3,000円、全日本少年団年会費: 5,000円）
新規入会の場合、当日に入会申込書をお渡しします。

11 . そ の 他

- (1) 柔道衣について
原則として柔道衣の袖・裾の折込みは禁止とする。また、前合わせについては十分な重なりがあること。
認証柔道衣の使用は義務付けない。但し、製造者マークについては全柔連の規程を遵守すること。
柔道衣及び女子のインナーは白色のみとする。
- (2) 監督の服装
審判員に準じた服装とする。男性はワイシャツ（白を基調とする）・ダークカラーのスラックス、女性も同様に白を基調としたワイシャツ・ブラウスにダークカラーのスラックス又はスカートを着用してください。
審判員ネクタイの着用は不可といたします。（ジャージ・柔道衣では大道場に入れません）
- (3) 怪我防止のため、爪は短く切りそろえること。
長い髪は束ねること（束ねた髪が長い方は更に折り返して結ぶなど相手の目に髪の毛が入る、当たることがないように配慮する。怪我防止のためヘアアクセサリは使用禁止）
- (4) ゼッケン(所属名と名字入り)を、柔道衣に着けて試合すること。
- (5) 各チームともオーダー表を1枚用意する。（模造紙たて4分の1）横788mm 縦272.75mm程度
左から先鋒として右側に団体名を記入すること

17 . 脳震盪対応について

- ジュニア(20歳未満)以下の選手および指導者は下記事項を遵守すること。
- ① 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。
 - ② 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること)
 - ③ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - ④ 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し書面により事故報告書を提出すること。

18 . 指導者のみなさまへ

本大会は、身体的にも精神的にも発育途上の小学生児童の大会であることを常に念頭におかれて特に危険防止について考慮されたい。また、礼法を正しく行わせることはもとより、姿勢・組み方についてもご配慮・ご指導をお願いしたい。